

長崎県の普通期栽培における水稲早生品種「なつほのか」の特性

○古賀潤弥・中山美幸・田畑士希
(長崎農林技開セ)

【目的】

長崎県では2005年に水稲中生の高温耐性品種「にこまる」を奨励品種に採用し「ヒノヒカリ」に替わり平坦地を中心に面積は拡大した。一方、県北部や高標高地では、秋冷えが早く「にこまる」では充実不足になりやすい。そこで、奨励品種決定調査では早生の高温耐性品種の選定を行い、「にこまる」より熟期の早い「なつほのか」を有望視し、その特性について検討した。

【材料および方法】

試験は2009年から2015年に奨励品種決定調査を行った(2009年と2010年は予備試験2011年からは本試験)。移植期は6月15日を基準日とした。施肥は、窒素成分でa当たり標肥区の基肥0.5kg, 移植10日後の追肥0.2kg, 穂肥幼穂10mmから15mmの時期に0.3kg施与した。多肥区は基肥と穂肥を標肥区の1.5倍とした。調査は作物調査基準に準じて行った。ただし、玄米品質調査は、1区から無作為に100粒を抽出し、1粒目視調査を行った。背白粒は、背側の白濁部分が玄米の長さ4分の1以上のものをカウントした。

【結果および考察】

「なつほのか」は、「あさひの夢」と比較して出穂期と成熟期は同等であった。稈長は長く穂長は同等で穂数は標肥区で同等, 多肥区で多かった。1穂粒数は同等, 千粒重は重く, 玄米重は「あさひの夢」対比 112%であった。背白粒は少なく, 検査等級も優れた。倒伏程度は「あさひの夢」よりやや劣り「ヒノヒカリ」並であった(表1)。

「なつほのか」の玄米重はm²当たり粒数で3万

粒程度まで増加する傾向がある(図1)。m²当たり粒数と検査等級には負の相関が認められ, m²当たり粒数で3万粒を超えると2等以下へ格落ちする傾向がある(図2)。m²当たり穂数とm²当たり粒数には正の相関が認められ, m²当たり350本から400本でm²当たり粒数は3万粒を超える傾向がある(図3)。これらのことから、「なつほのか」の高品質栽培のためにはm²当たり穂数で350本から400本程度としm²当たり粒数で3万粒を超えないようにする必要があると考えられる。

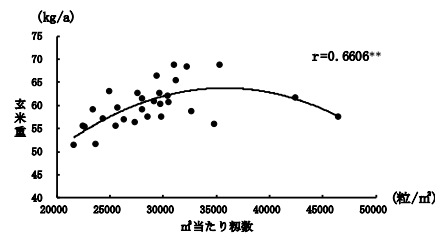


図1 m²当たり粒数と玄米重

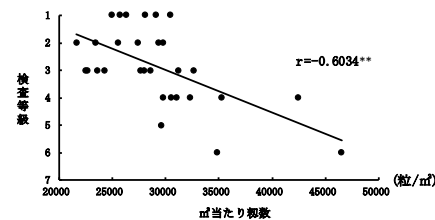


図2 m²当たり粒数と検査等級

注)検査等級は1(1等上)から10(規格外)の10段階評価

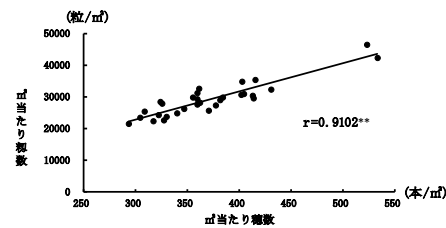


図3 m²当たり穂数と粒数

表1 品種特性

試験区	品種名	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	1穂 粒数 (粒/穂)	千粒 重 (g)	精玄 米重 (kg/a)	比率 (%)	背白 粒 (%)	検査 等級 (1~10)	倒伏 (0~5)
標	なつほのか	8/16	9/21	80.5	19.9	335	78.5	24.7	57.0	112	2.4	2.8	0.2
肥	あさひの夢(標)	8/17	9/22	73.0	20.9	325	77.1	23.3	51.0	100	19.8	4.1	0.0
	ヒノヒカリ(比)	8/23	10/2	83.8	19.4	332	79.7	23.5	54.9	108	28.7	4.2	0.2
多	なつほのか	8/16	9/25	82.7	20.3	395	78.3	25.0	61.8	112	1.4	3.2	0.8
肥	あさひの夢(標)	8/17	9/24	74.0	21.3	357	75.1	23.8	55.6	100	11.8	3.5	0.1
	ヒノヒカリ(比)	8/23	10/3	86.8	19.5	366	79.9	23.7	58.3	105	17.3	3.7	0.4

注)1 穂粒数は代表株3株調査,検査等級は1(1等上)から10(規格外)の10段階評価,倒伏は0(無)から5(甚)の6段階評価